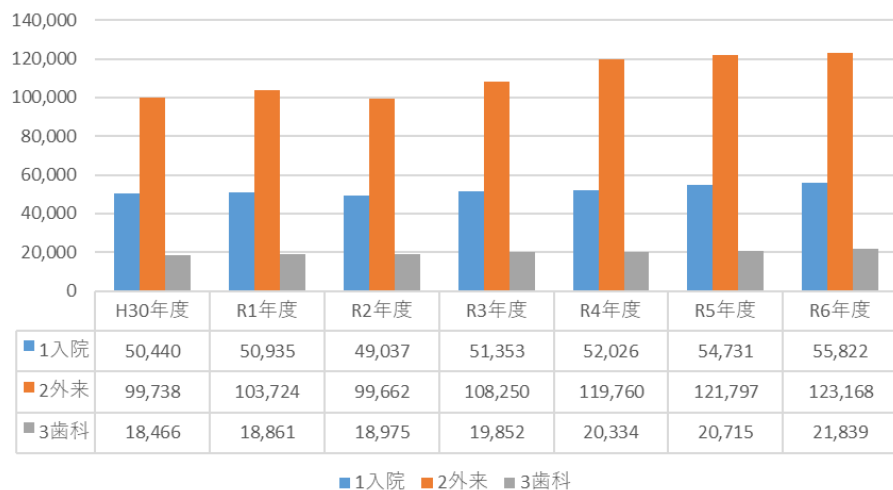


重点施策のデータ資料集

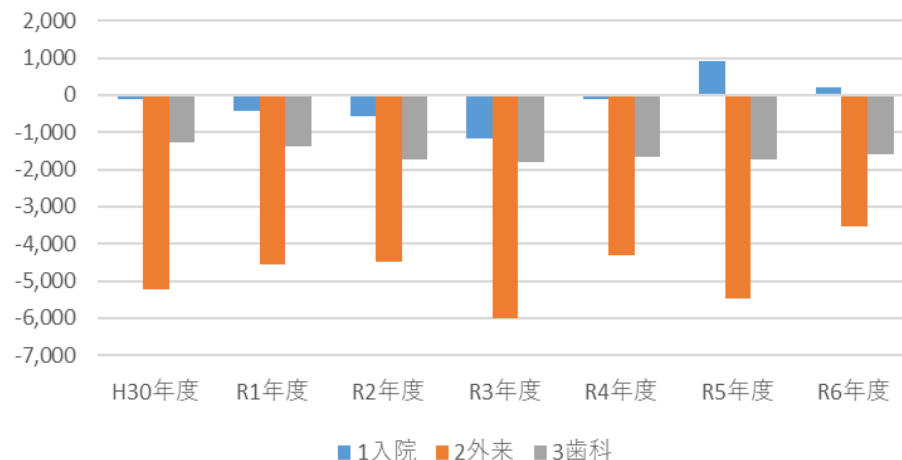
1. 診療種別毎の1人当たり医療費の動向

- 1人当たり医療費は、外来の医療費が最も高く、約6割を占めている。
- 平成30年度以降の伸び率においても、外来の医療費が最も高い。
- 入院医療費は、令和5年以降全国平均を上回っている。
- 入院外医療費は、令和6年度が全国平均との差が最も小さい。

滋賀支部 1人当たり医療費の動向



1人当たり医療費の全国平均との差 (年齢調整後)

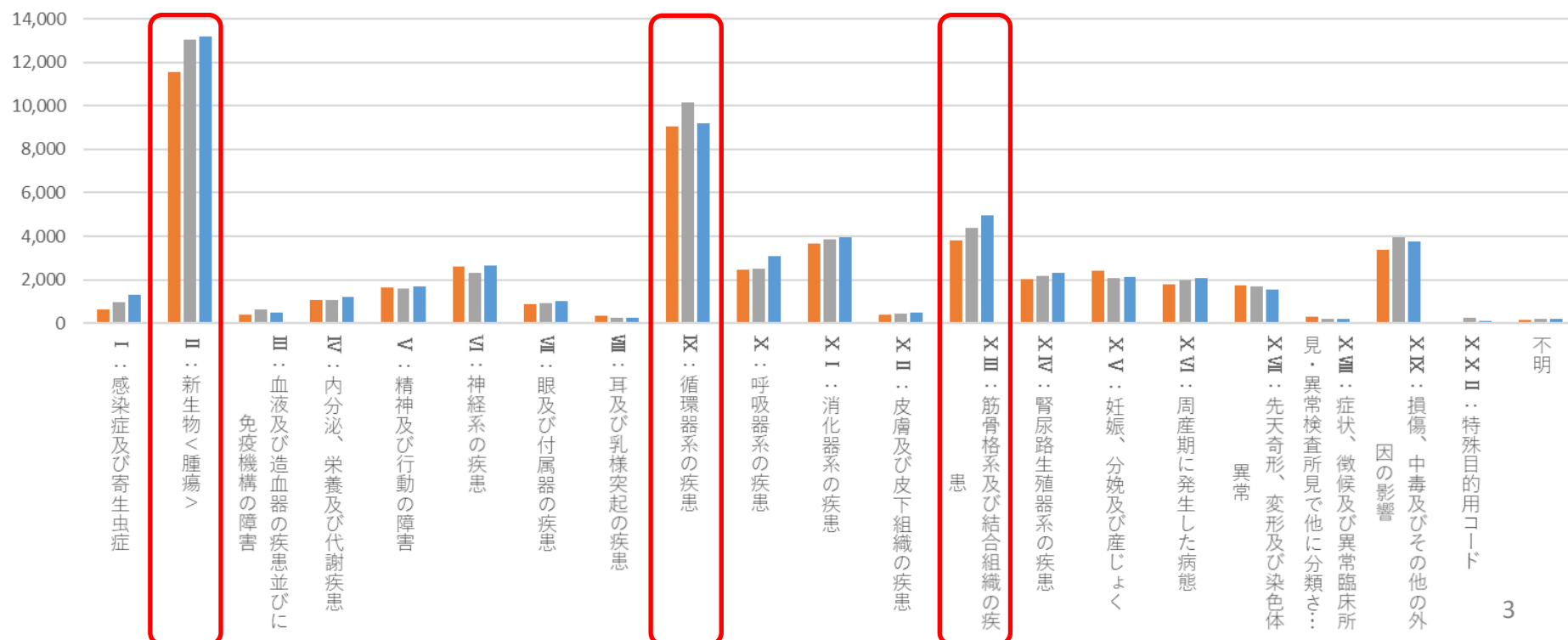


2. 疾病分類別1人当たり入院医療費の動向

- 「新生物」、「循環器系の疾患」及び「筋骨格系および結合組織の疾患」が高い。
- 上記のうち、「新生物」及び「筋骨格系および結合組織の疾患」がH30年度と比べR6年度は高い。

疾病分類別1人当たり入院医療費

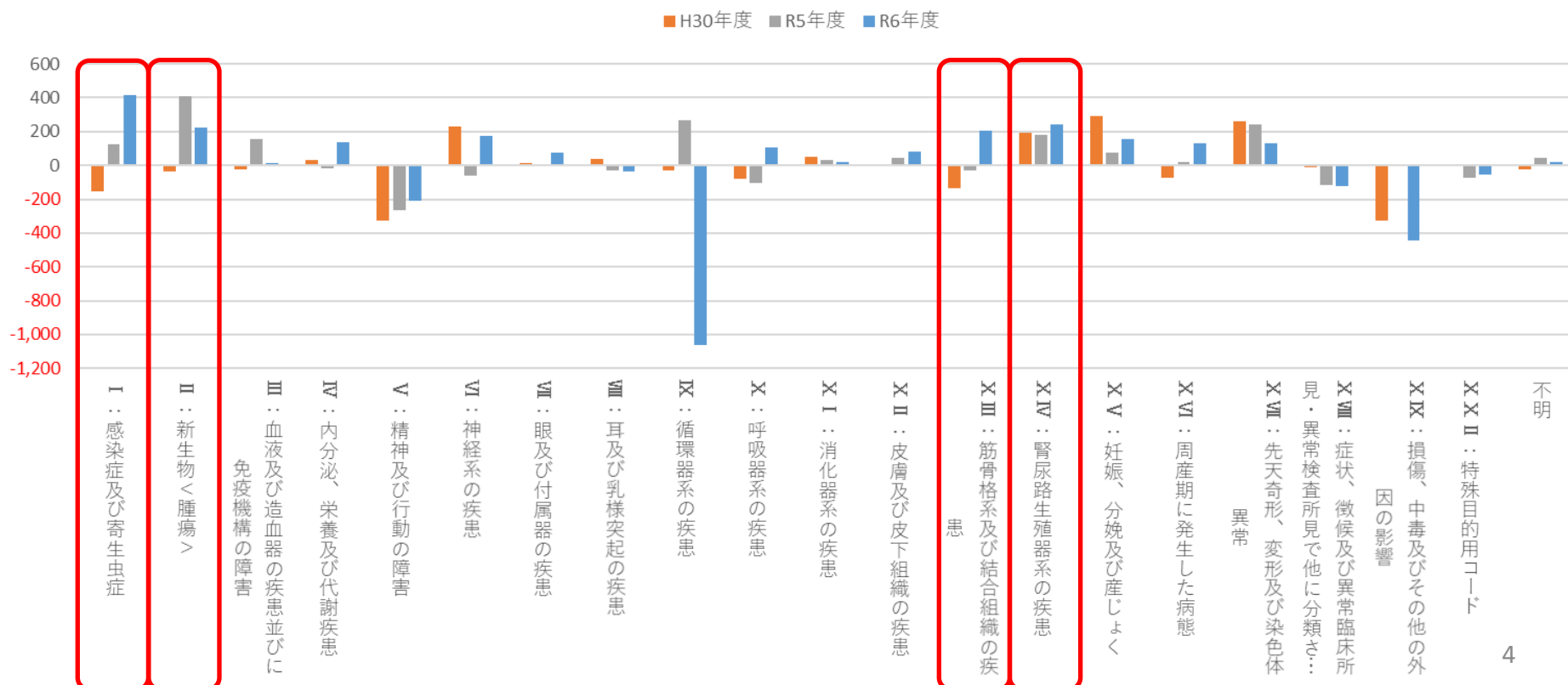
■ H30年度 ■ R5年度 ■ R6年度



2. 疾病分類別1人当たり入院医療費の動向

- 「腎尿路生殖器系の疾患」、「妊娠、分娩及び産じょく」及び「先天奇形、変形及び染色異常」が3年度とも全国平均を上回っている。
- 「感染症及び寄生虫症」、「新生物」及び「筋骨格系及び結合組織の疾患」の医療費が、H30年度と比べR6年度は全国平均との差がプラスに大きく変動している。

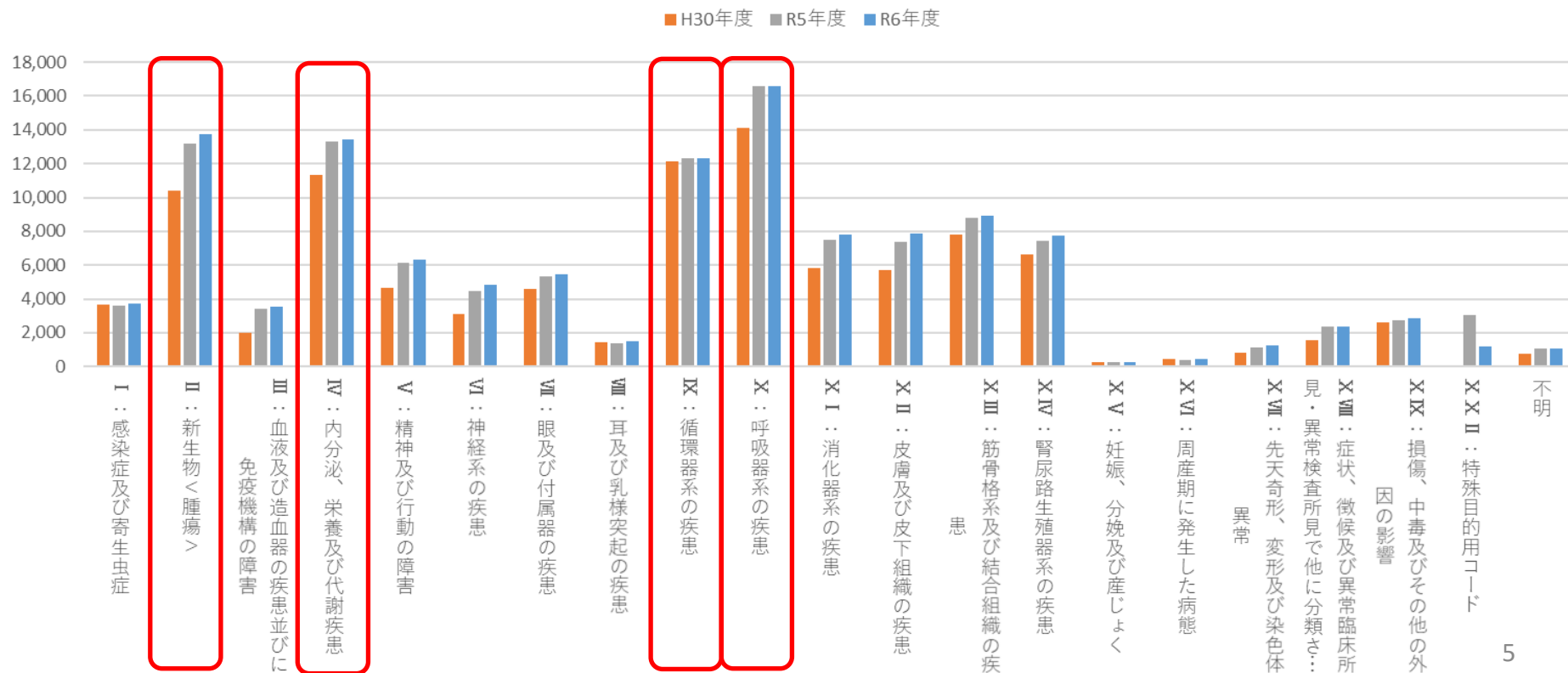
疾病分類別1人当たり入院医療費の全国との差（年齢調整済み）



3. 疾病分類別1人当たり入院外医療費の動向

- 1人当たり外来医療費は「新生物」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」及び「呼吸器系の疾患」が高い。
- 上記のうち、「新生物」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」及び「呼吸器系の疾患」がH30年度と比べR6年度は高い。

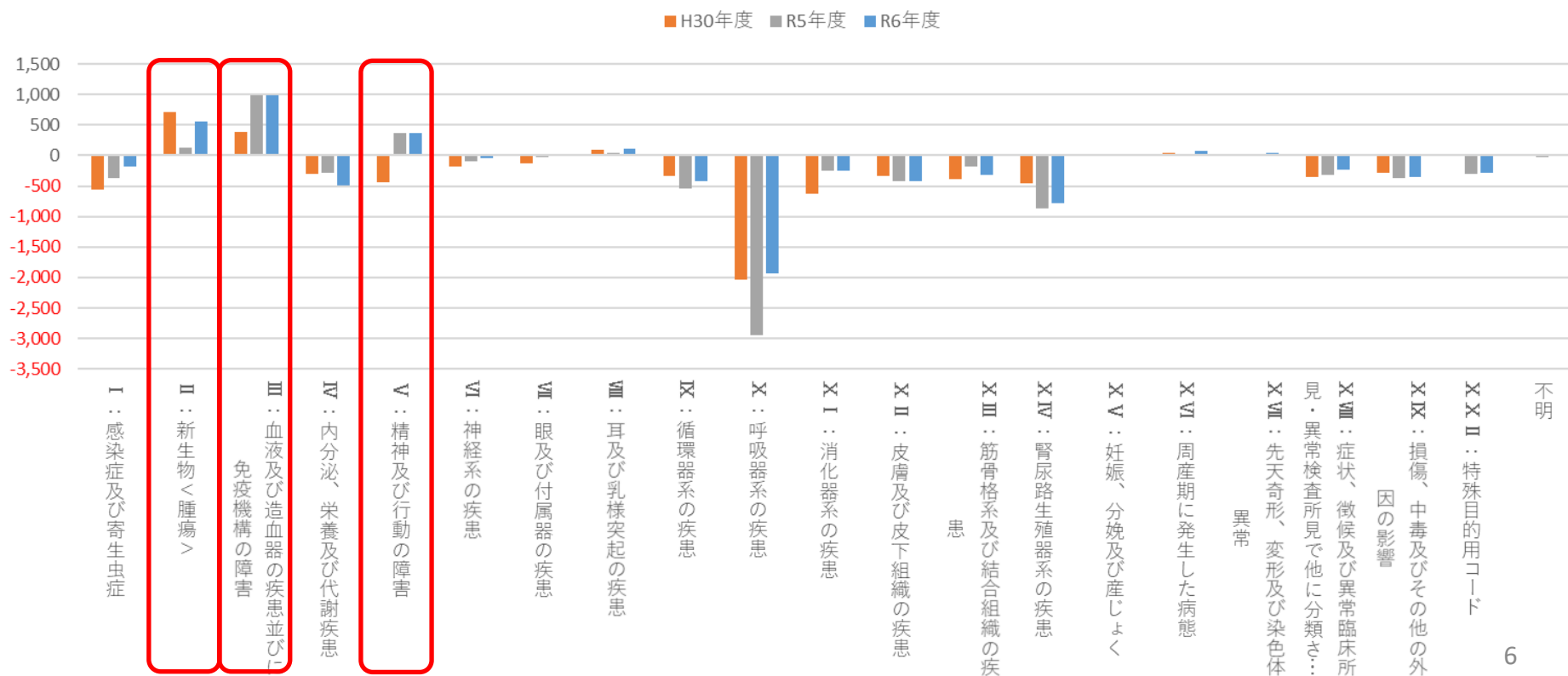
疾病分類別1人当たり外来医療費



3. 疾病分類別1人当たり入院外医療費の動向

- 「新生物」及び「血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害」が3年度とも全国平均を上回っている。
- 「新生物」、「血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害」及び「精神及び行動の障害」は、全国平均との差がプラスになっている。

疾病分類別1人当たり外来医療費の全国との差（年齢調整済み）



4. 疾病分類別1人当たり外医療費の詳細分析

1) 新生物

2) 筋骨格及び結合組織の疾患

3) 精神及び行動の障害

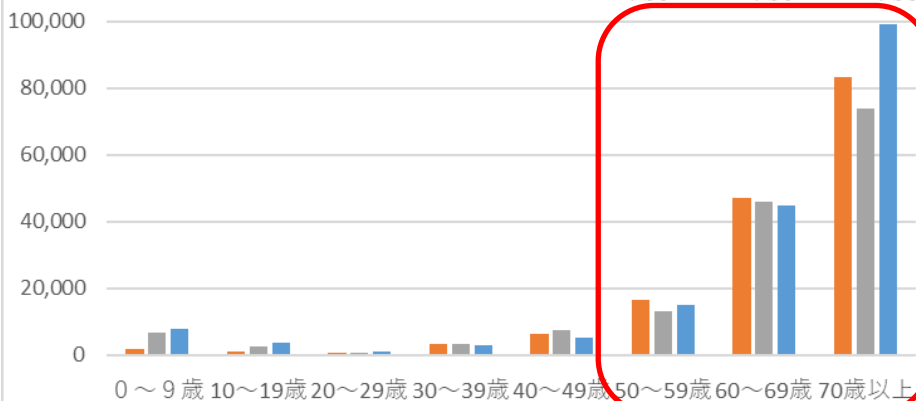
4) 腎尿路生殖器系の疾患

- 「新生物」にかかる1人当たり医療費は、入院・入院外共に男性は50歳代から、女性は40歳代から増加し始めている。
- 60歳代と70歳代の医療費を比較すると、男性の方が大きく増加する傾向にある。

年齢階級別 1人当たり入院医療費（男性）

（新生物）

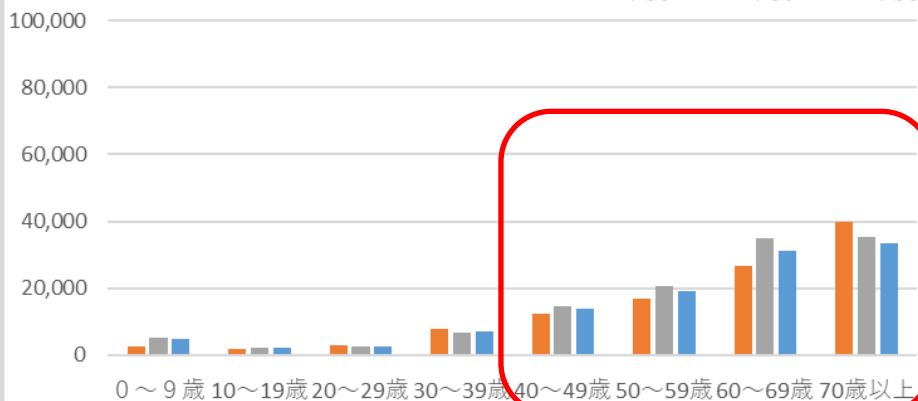
■ H30年度 ■ R5年度 ■ R6年度



年齢階級別 1人当たり入院医療費（女性）

（新生物）

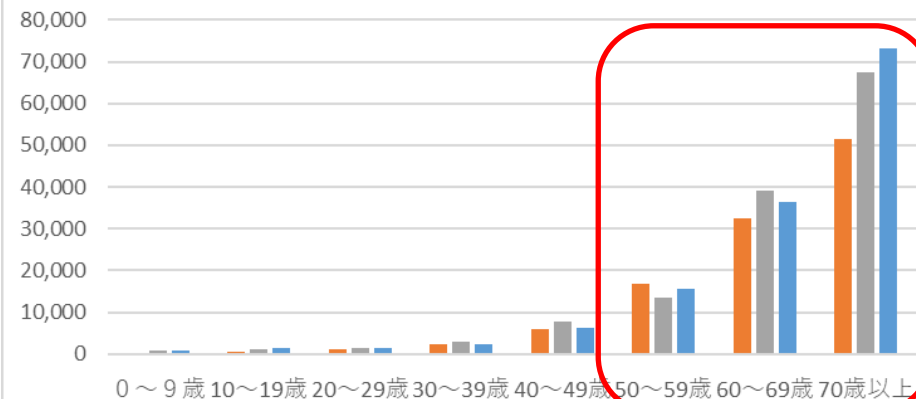
■ H30年度 ■ R5年度 ■ R6年度



年齢階級別 1人当たり外来医療費（男性）

（新生物）

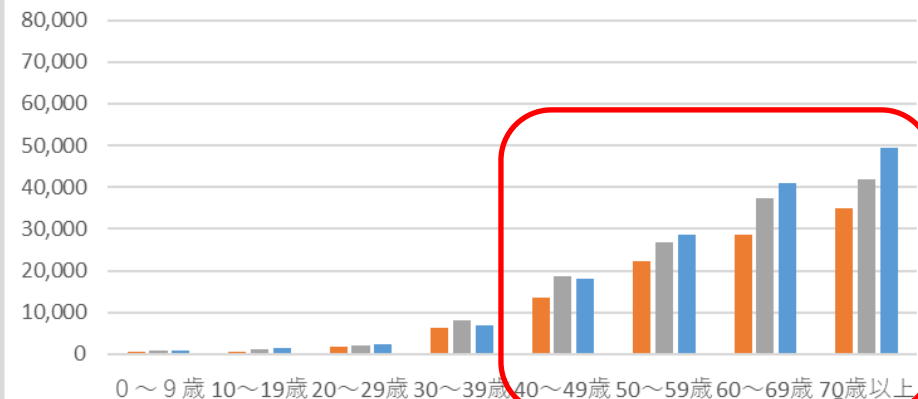
■ H30年度 ■ R5年度 ■ R6年度



年齢階級別 1人当たり外来医療費（女性）

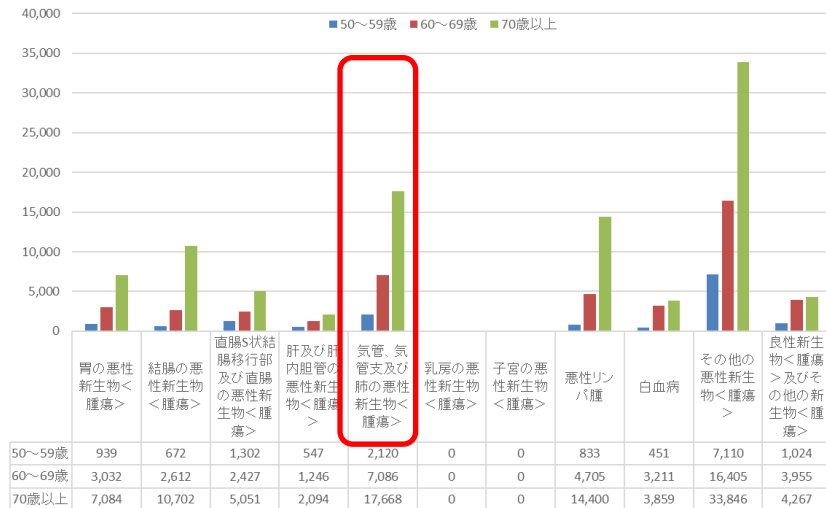
（新生物）

■ H30年度 ■ R5年度 ■ R6年度

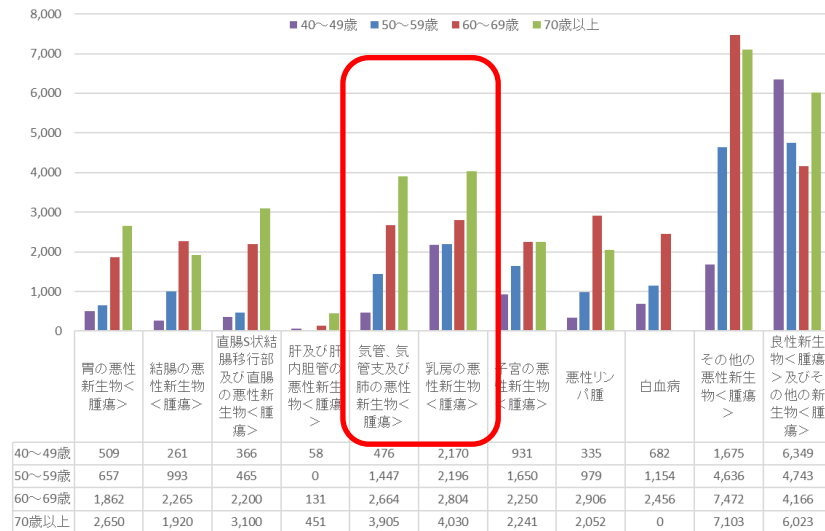


○ 男性は「気管、気管支及び肺の悪性新生物」の医療費が最も高く、女性は「乳房の悪性新生物」の医療費が最も高い。

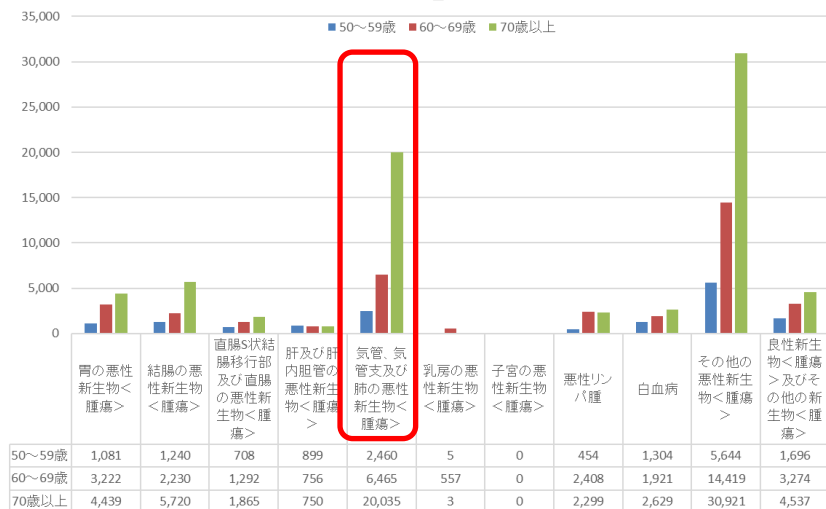
令和6年度1人当たり入院医療費(男性)
(新生物_中分類)



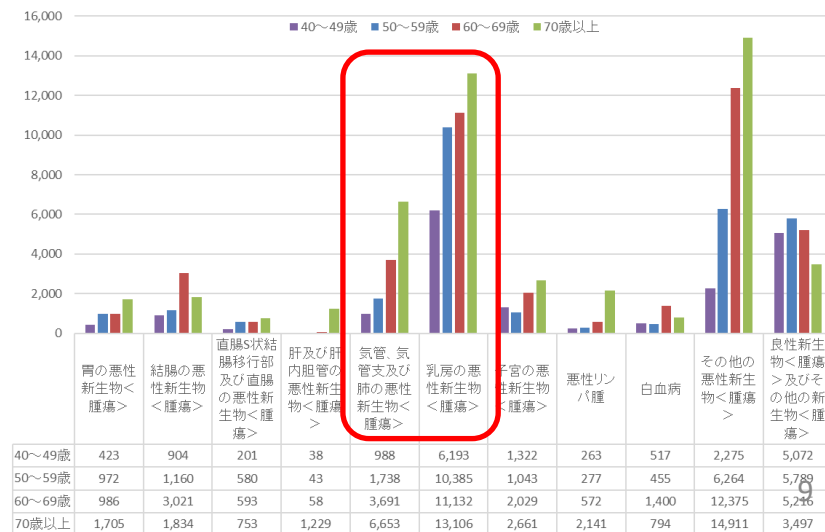
令和6年度1人当たり入院医療費(女性)
(新生物_中分類)



令和6年度1人当たり外来医療費(男性)
(新生物_中分類)



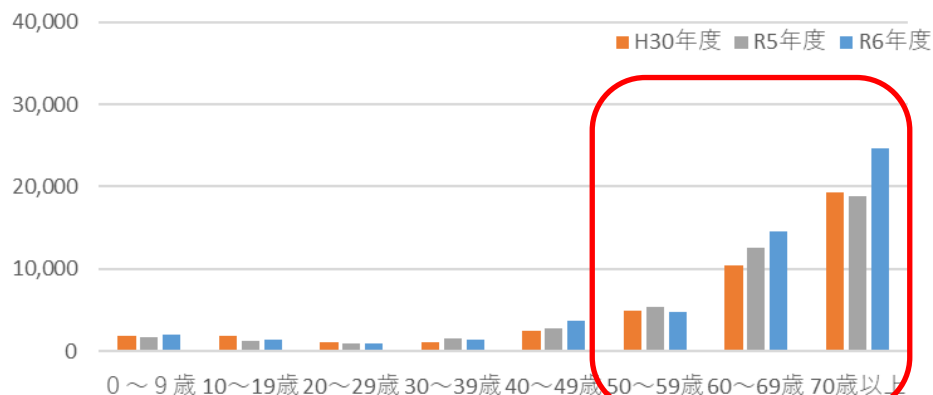
令和6年度1人当たり外来医療費(女性)
(新生物_中分類)



- 「筋骨格及び結合組織の疾患」にかかる医療費は、男女ともに50歳代から増加し始めている。
- 入院・入院外ともに60歳代以降は、女性の方が医療費が高い傾向にある。

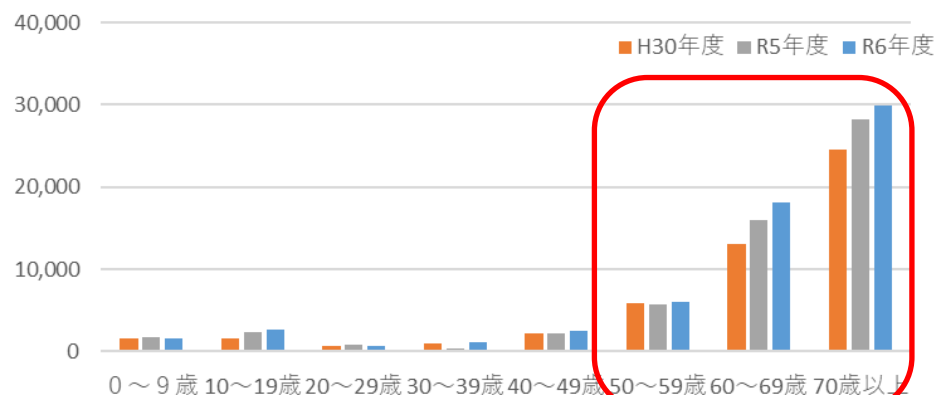
年齢階級別 1 人当たり入院医療費（男性）

（筋骨格系及び結合組織の疾患）



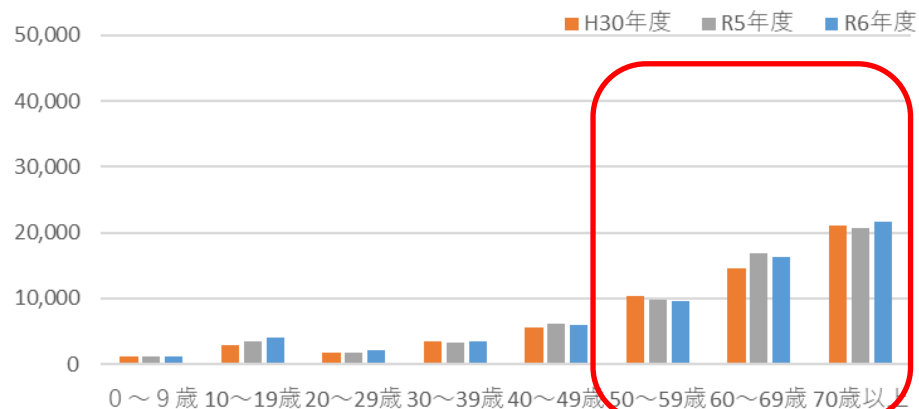
年齢階級別 1 人当たり入院医療費（女性）

（筋骨格系及び結合組織の疾患）



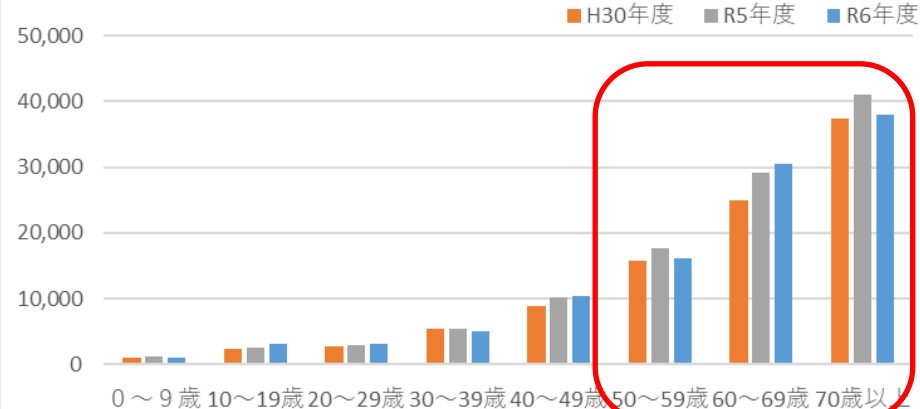
年齢階級別 1 人当たり外来医療費（男性）

（筋骨格系及び結合組織の疾患）



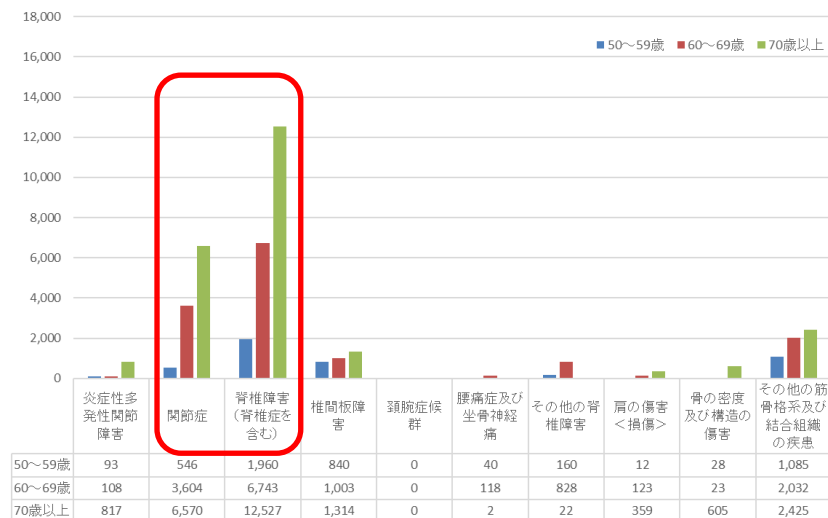
年齢階級別 1 人当たり外来医療費（女性）

（筋骨格系及び結合組織の疾患）

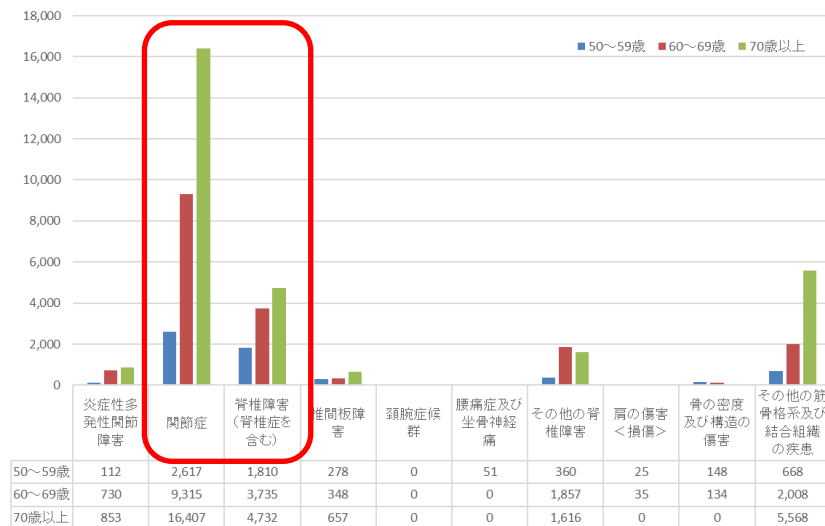


- 入院医療費では、男女とも「関節症」及び「脊椎障害」が高い傾向にある。
- 入院外医療費では、女性は入院医療費と異なり「炎症性多発性関節障害」及び「骨の密度及び構造の傷害」の医療費が高い傾向にある。

令和6年度1人当たり入院医療費(男性)
(筋骨格系及び結合組織の疾患_中分類)



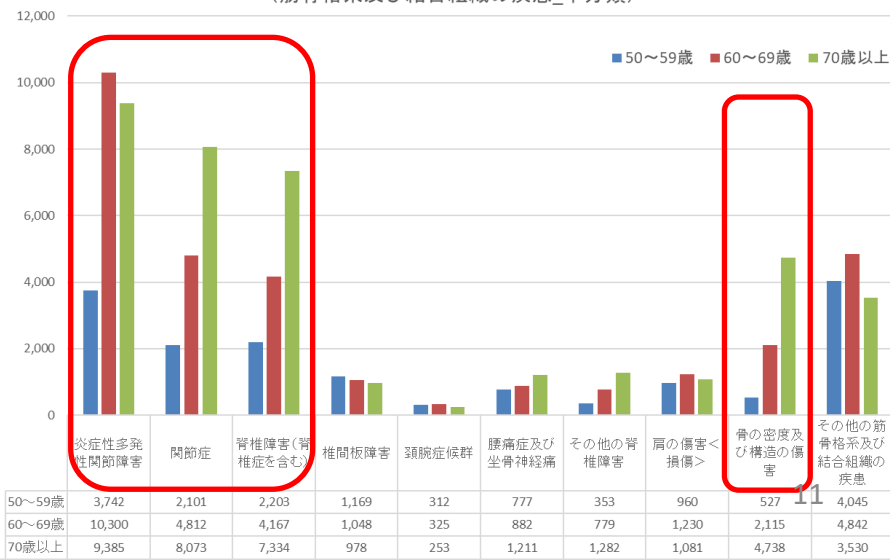
令和6年度1人当たり入院医療費(女性)
(筋骨格系及び結合組織の疾患_中分類)



令和6年度1人当たり外来医療費(男性)
(筋骨格系及び結合組織の疾患_中分類)

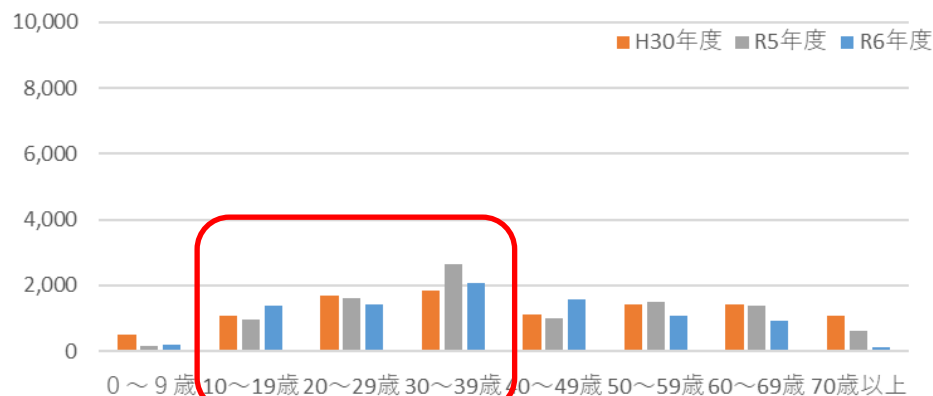


令和6年度1人当たり外来医療費(女性)
(筋骨格系及び結合組織の疾患_中分類)

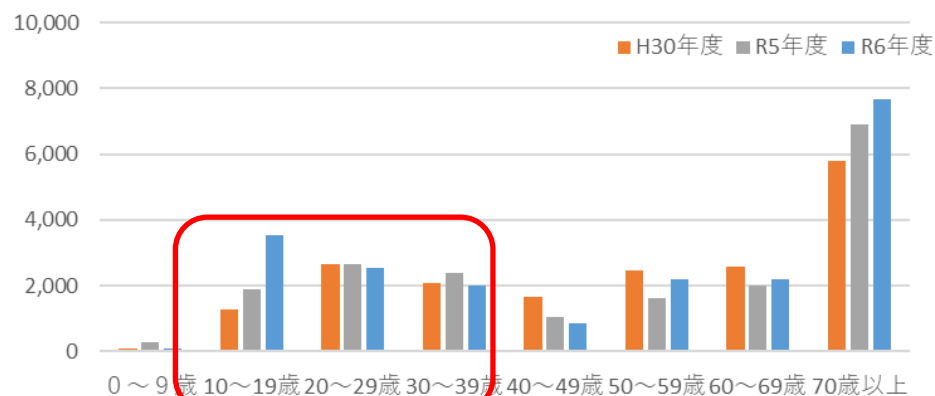


○ 「精神及び行動の障害」にかかる医療費は、若年層から医療費が高い傾向がある。

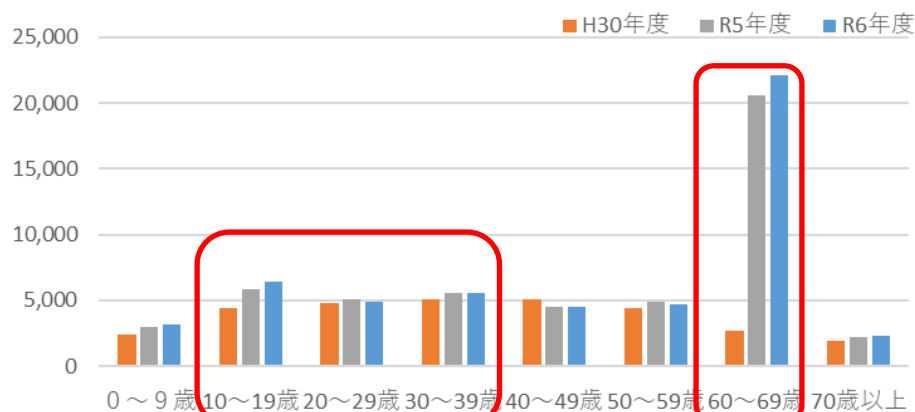
年齢階級別 1 人当たり入院医療費（男性）
（精神及び行動の障害）



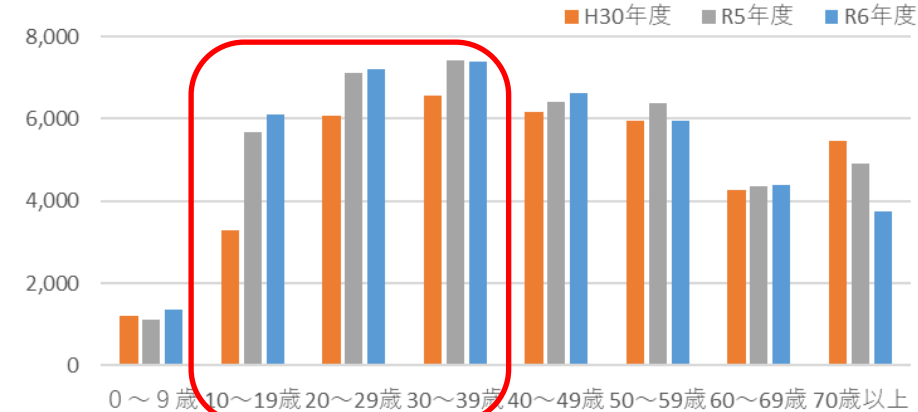
年齢階級別 1 人当たり入院医療費（女性）
（精神及び行動の障害）



年齢階級別 1 人当たり外来医療費（男性）
（精神及び行動の障害）

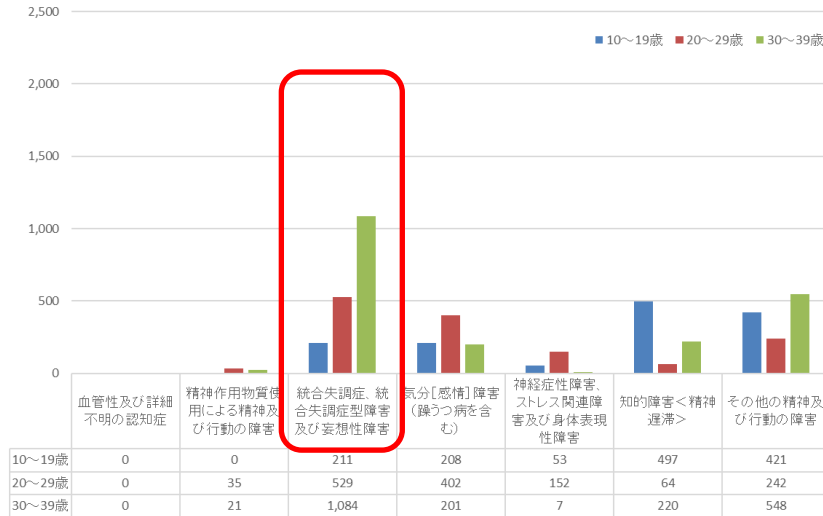


年齢階級別 1 人当たり外来医療費（女性）
（精神及び行動の障害）

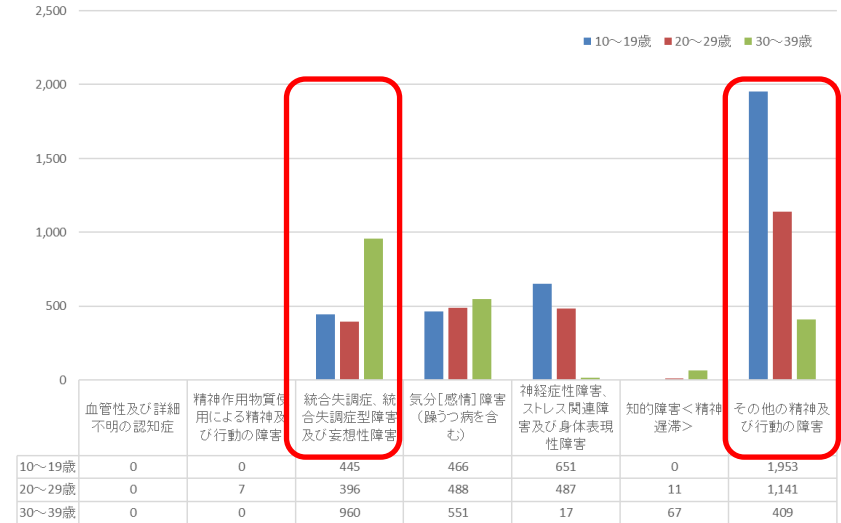


- 入院医療費は「統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害」が、入院外医療費は「気分[感情]障害(躁うつ病を含む)」が男女とも高い傾向にある。
- 10歳台は「その他の精神及び行動の障害」の医療費が高い傾向にある。

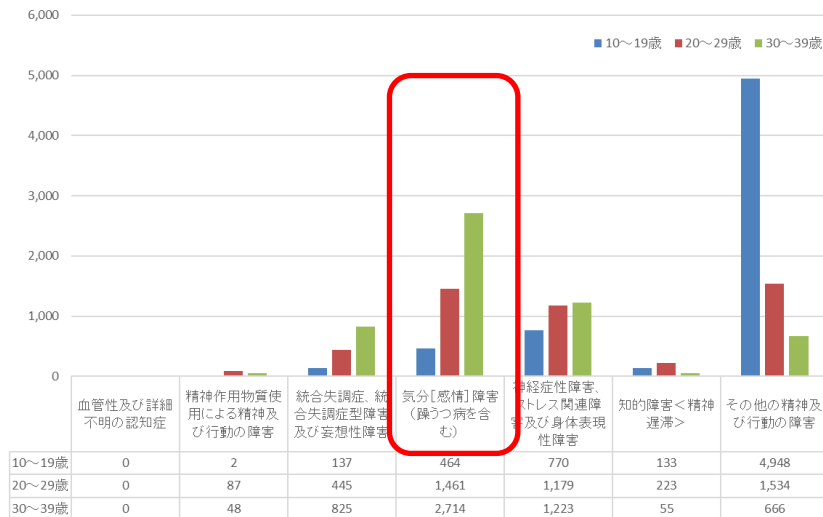
令和6年度1人当たり入院医療費(男性)
(精神及び行動の障害_中分類)



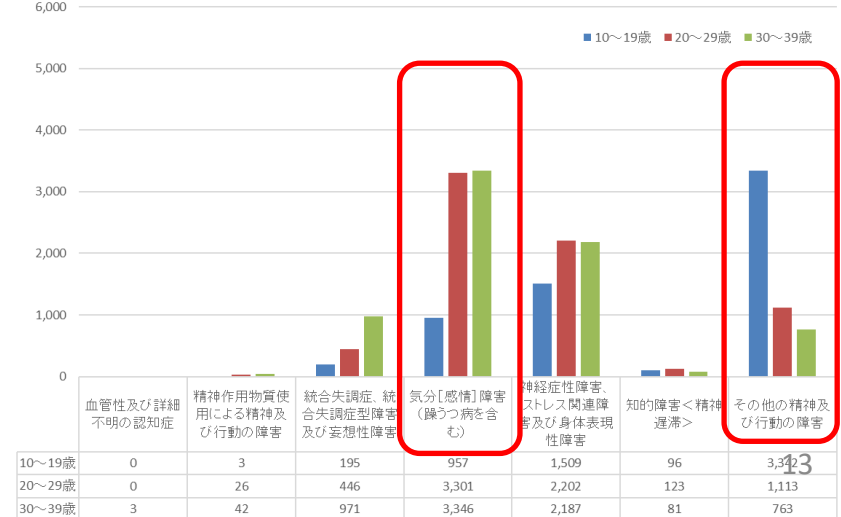
令和6年度1人当たり入院医療費(女性)
(精神及び行動の障害_中分類)



令和6年度1人当たり入院外医療費(男性)
(精神及び行動の障害_中分類)

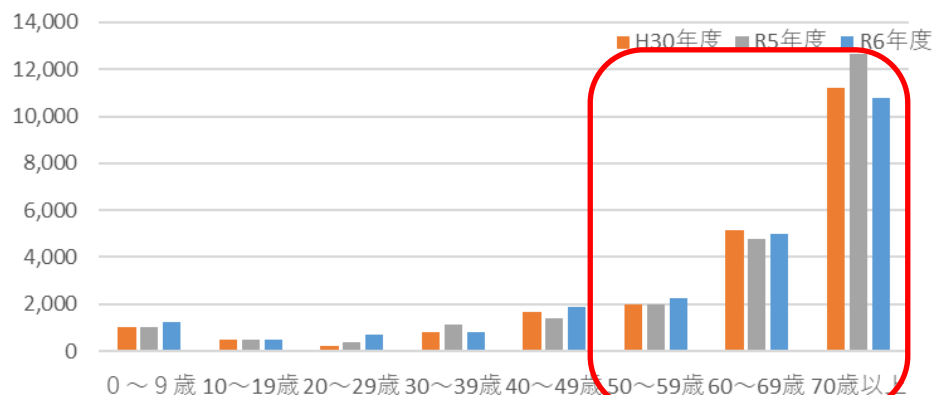


令和6年度1人当たり入院外医療費(女性)
(精神及び行動の障害_中分類)

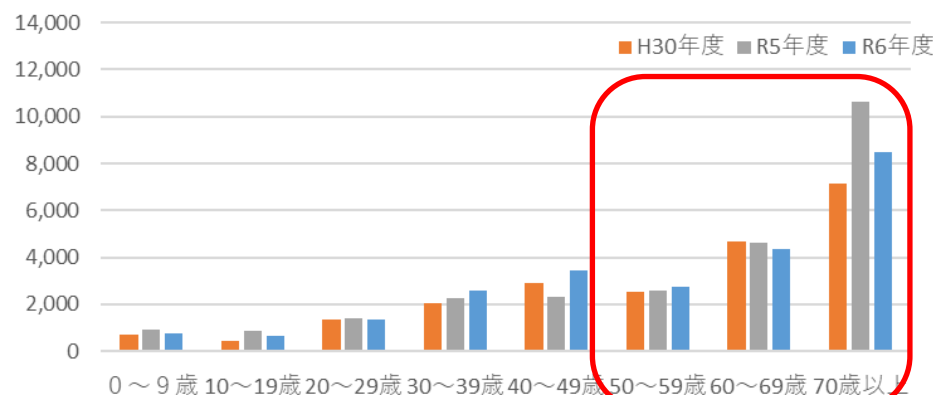


- 「腎尿路生殖器系の疾患」にかかる医療費は、男女ともに50歳代から増加し始めている。
- 入院・入院外ともに60歳代以降は、女性の方が医療費が高い傾向にある。

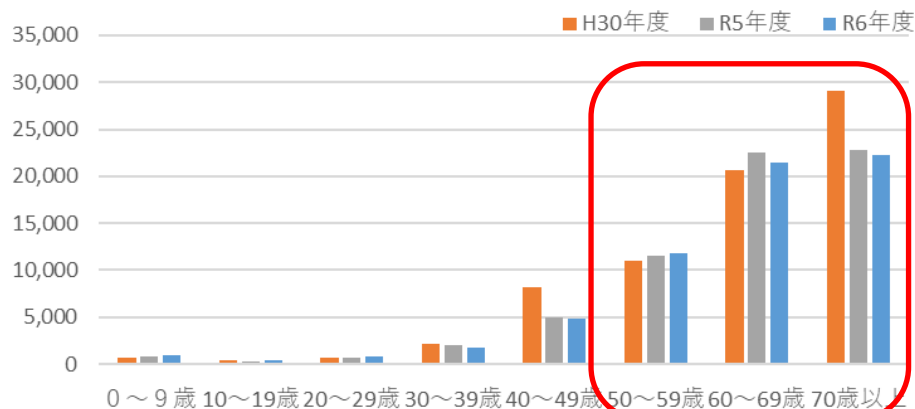
年齢階級別 1 人当たり入院医療費（男性）
（腎尿路生殖器系の疾患）



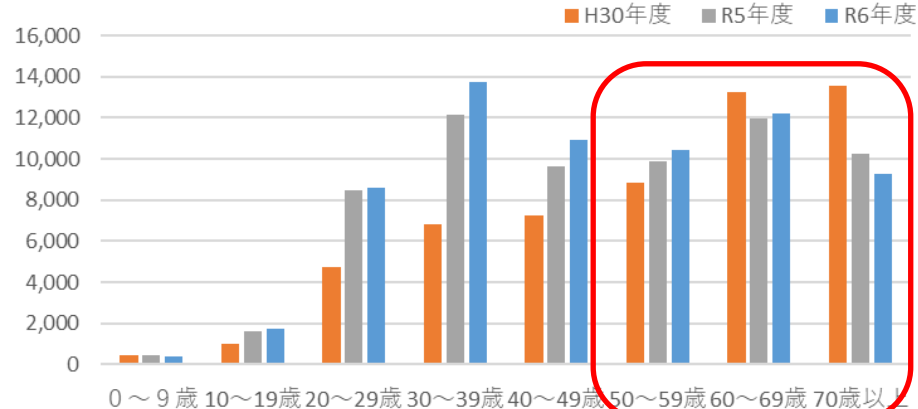
年齢階級別 1 人当たり入院医療費（女性）
（腎尿路生殖器系の疾患）



年齢階級別 1 人当たり外来医療費（男性）
（腎尿路生殖器系の疾患）

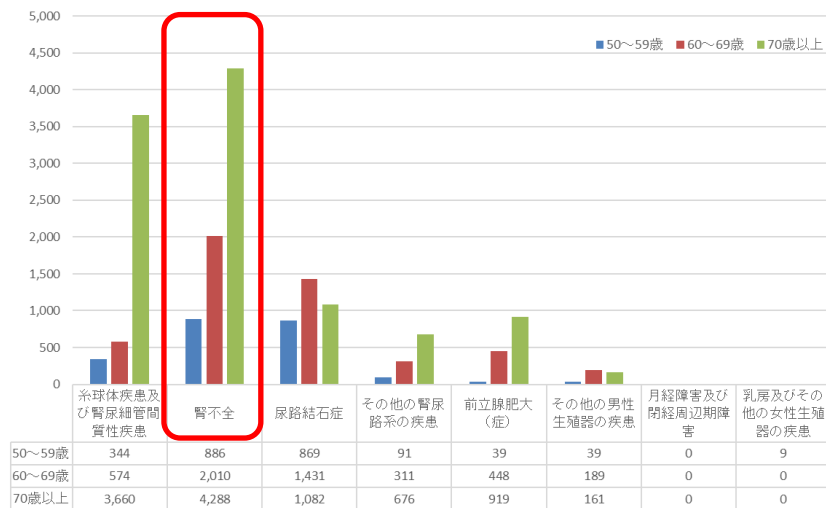


年齢階級別 1 人当たり外来医療費（女性）
（腎尿路生殖器系の疾患）

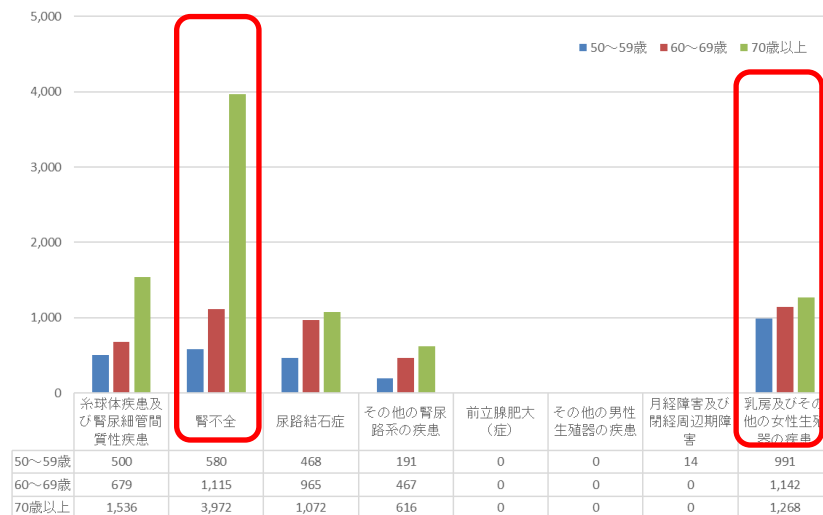


- 入院医療費・入院外医療費とも、男女とも「腎不全」が最も高い。
- 女性は「乳房及びその他の女性生殖器の疾患」の医療費が高い傾向にある。

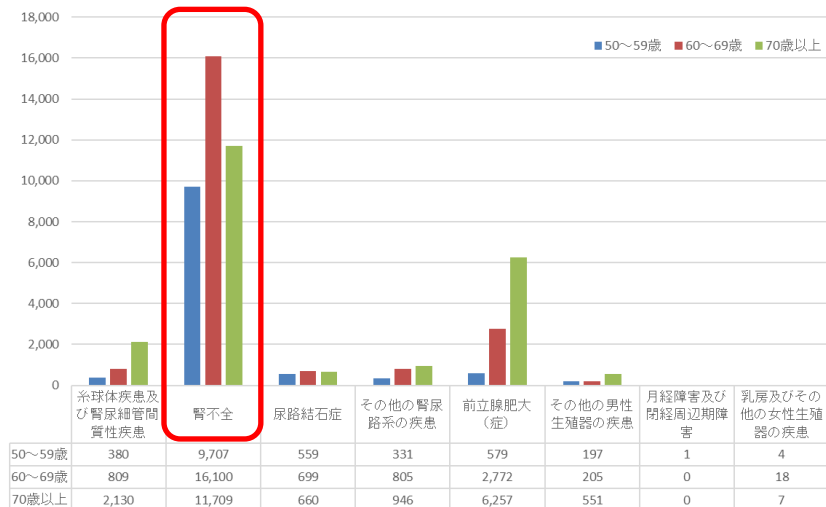
令和6年度1人当たり入院医療費(男性)
(腎尿路生殖器系の疾患_中分類)



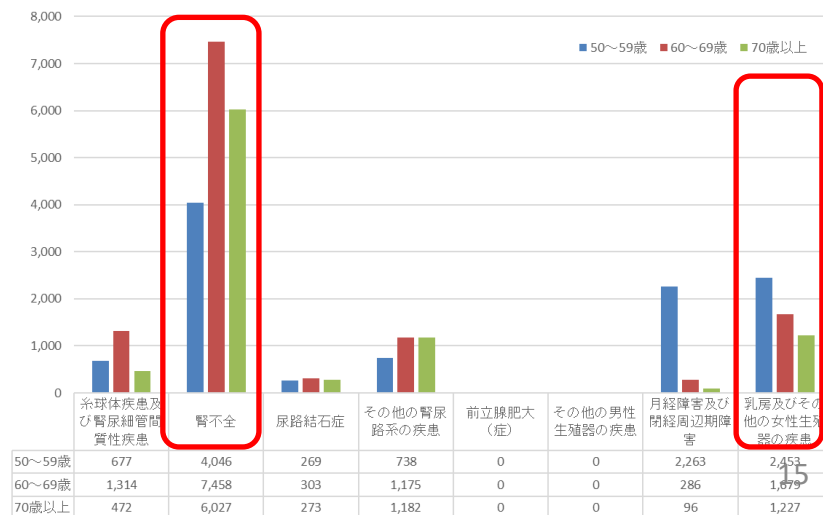
令和6年度1人当たり入院医療費(女性)
(腎尿路生殖器系の疾患_中分類)



令和6年度1人当たり入院外医療費(男性)
(腎尿路生殖器系の疾患_中分類)



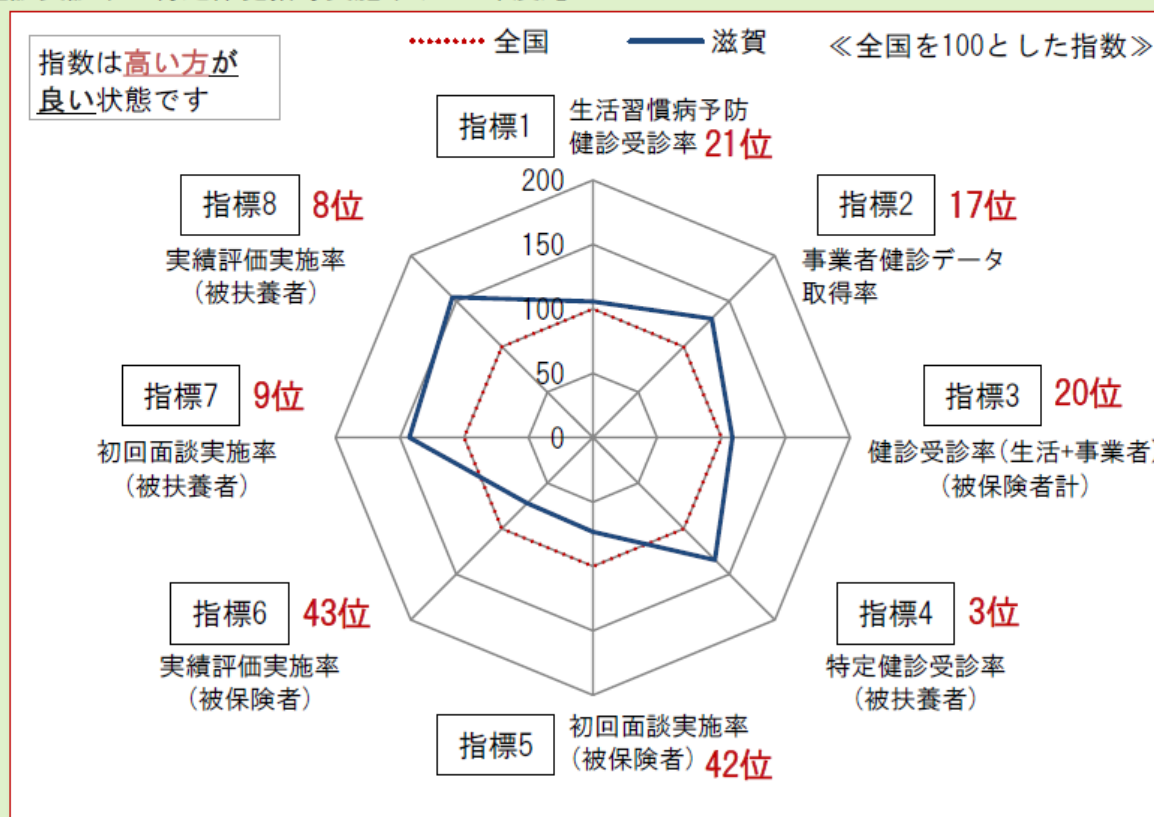
令和6年度1人当たり入院外医療費(女性)
(腎尿路生殖器系の疾患_中分類)



5. 健診・特定保健指導に関する状況

- 被保険者は、生活習慣病予防健診の受診率は全国平均を上回っているものが、被保険者の健康サポート(特定保健指導)の実施率が低い。
- 被扶養者は、特定健診受診率も健康サポート実施率も高い。

【健診受診率・特定保健指導実施率(2024年度)】

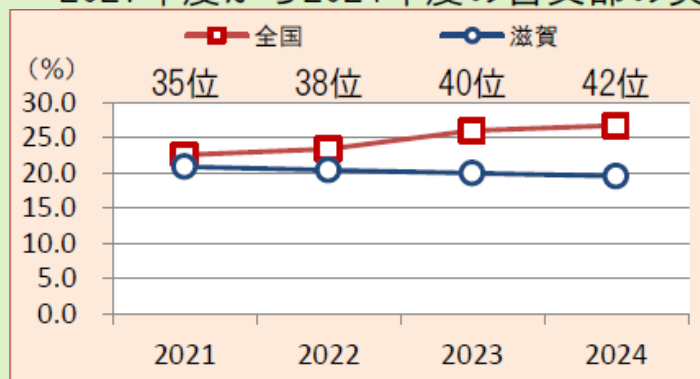


5. 健診・特定保健指導に関する状況

- 初回面談の実施率は、2021年度以降徐々に低下している。
- 実績評価の実施率は、2022年度は上昇したが、2023年度から低下している。

初回面談

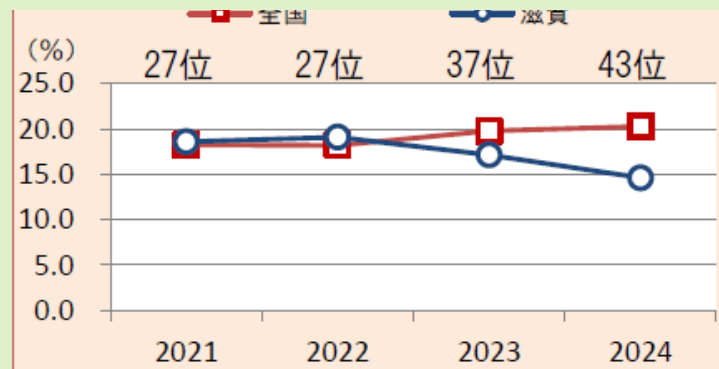
2021年度から2024年度の自支部の実施率と全国順位及び全国平均



	年度	実施者数	実施率 (%)
滋賀支部	2021	4,083	20.8
	2022	3,788	20.4
	2023	3,957	20.0
	2024	4,021	19.5
全国平均	2024	-	26.7

(データソース：各支部からの報告による請求ベースのデータ)

実績評価



	年度	実施者数	実施率 (%)
滋賀支部	2021	3,635	18.6
	2022	3,547	19.1
	2023	3,389	17.1
	2024	3,007	14.6
全国平均	2024	-	20.3

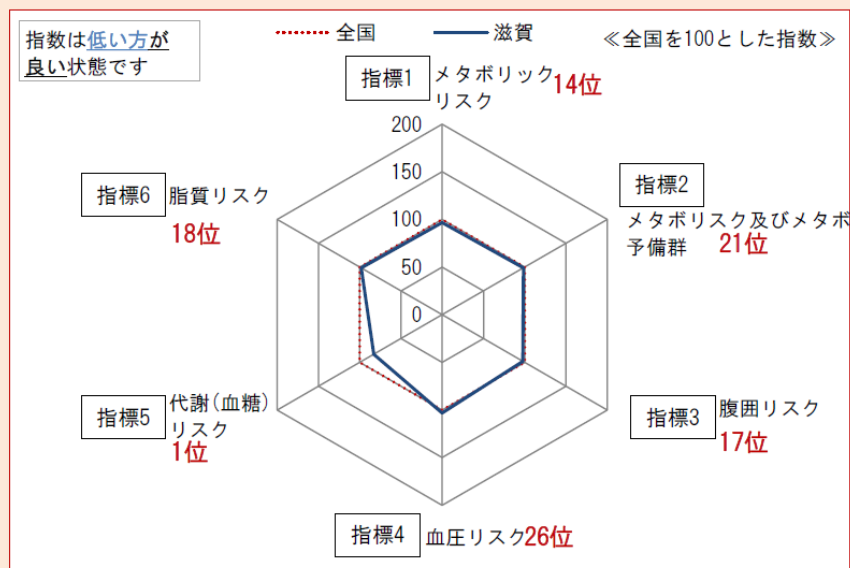
(データソース：各支部からの報告による請求ベースのデータ)

5. 健診・特定保健指導に関する状況

- 男女とも「代謝(血糖)リスク」が全国で最も低い。
- 男女とも「脂質リスク」及び「血圧リスク」が全国平均に近い。

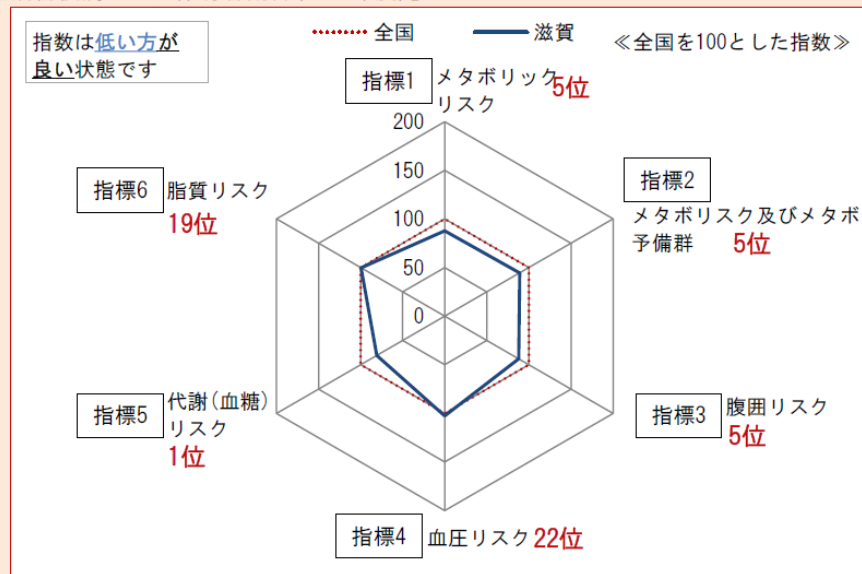
男性

【生活習慣病リスク保有者割合(2024年度)】



女性

【生活習慣病リスク保有者割合(2024年度)】

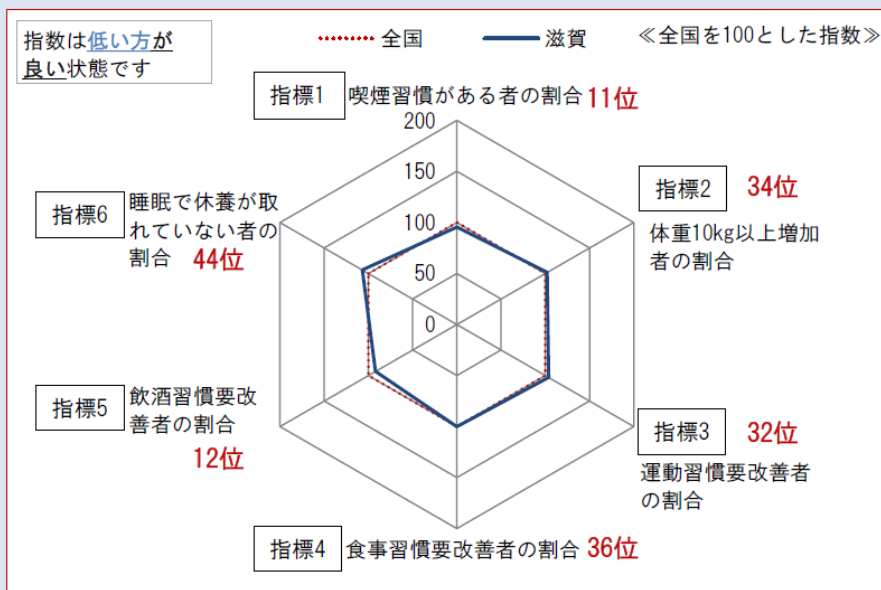


5. 健診・特定保健指導に関する状況

- 男女とも「睡眠で休養が取れていない者」及び「運動習慣要改善者」の割合が高い。
- 男女とも「喫煙習慣がある者」の割合が低い。

男性

【生活習慣病リスク保有者割合(2024年度)】



女性

【生活習慣病リスク保有者割合(2024年度)】

